農作物技術情報　第８号の要約

令和６年１０月３１日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技　術　の　要　約
水稲	技術対策 今年の栽培管理について、必要な技術対策を確実に実施したか、コスト面の無駄はなかったかなど、来作に向けて振り返りを行う。
畑作物	生育状況：大豆は、平年より早く成熟期を迎えている。小麦は、降雨の影響により播種作業が遅れた圃場がみられたが、出芽、初期生育は良好である。 技術対策 **大豆**：汚損粒発生防止のため、事前に青立ち株や大型雑草を抜き取るとともに、莢先熟がみられる圃場では子実水分・茎水分の低下を確認のうえ、速やかに収穫を行う。 **小麦**：除草剤を散布していない圃場では、小麦の生育や雑草の発生状況に応じた土壌処理剤を選択し、必ず散布する。圃場が乾いたら麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避する。
野菜	生育状況：果菜類の収穫は終盤となり、出荷量は少なくなっている。ねぎは順次出荷が進んでいる。ほうれんそうの生育は概ね良好である。 技術対策 **共通：**来年の安定生産に向け、栽培終了後は作物残さを適切に処分し、資材の消毒を行うなど病害虫発生源を排除する。来作に向け、土壌分析の結果等に基づいた適正な施肥管理を計画する。 **施設野菜**：冬期間に温度確保が必要となる施設野菜では、暖房装置の点検等を含めた省エネルギー対策を実施するとともに、作目の特性や生育ステージに合わせた適正な温度管理を行う。 **寒じめほうれんそう**：出荷できる葉長になった時点でハウスの入口やサイドビニールを開け、１週間程度５℃以下の低温に連続して遭遇させ、葉柄の Brix 値８％以上を確保する。 **促成アスパラガス：**根株は５℃以下の積算遭遇時間 90 時間以上を目安に掘り取り、伏せ込み後の収量を確保する。
花き	生育状況：りんどう、小ぎくとも出荷終盤となっている。 技術対策 **りんどう**：残茎処理などの秋じまい管理は遅れないよう行う。 **小ぎく：**計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保する。 **共通：**今年の栽培を振り返り、翌年の作付計画を立てる。
果樹	生育状況：りんごの果実生育（横径）は平年並み。夏秋期は気温が高く着色が遅れる中、果実品質（「ジョナゴールド」）は糖度が高く、硬度とデンプン指数は低いため果肉先行となった。 技術対策 りんご「ふじ」の成熟も早まることを想定し、着色や蜜入りを待ち過ぎて収穫を遅らせると、貯蔵性の低下や裂果の発生、樹上凍結も懸念されるので、食味を重視した適期収穫に努める。
畜産	技術対策 **牧草**：翌春の１番草に向け、堆肥散布や土壌 pH の改善を実施する。 **家畜（子牛管理）**：秋～冬の寒さは子牛の発育に大きく影響する。休息場所を乾いた状態に保ち、保温と換気をしっかり行うなど、ポイントを押さえた防寒対策を実施する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」でご覧ください。https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/ （「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

〇**農薬適正使用**:使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

〇**9月15日～11月15日秋の農作業安全月間「ひと休み　急がば回れ　農作業　ゆとり忘れず　安全管理」**
日没が早まる時期なので、無理をせず安全第一の農作業を心掛ける。

次号は令和6年11月28日（木）発行の予定です